

令和元年度第2回 松戸市子ども・子育て会議録（要旨）

1. 日時	令和元年8月5日（月） 18：30～20：40
2. 場所	議会棟3階特別委員会室
3. 出席者	<p><委員>（50音順）19名 阿部委員、天田委員、石田委員、荻野委員、加藤委員、神谷委員、小松委員、坂野委員、佐藤委員、千石委員、玉乃井委員、知久委員、奈賀委員、百田委員、平井委員、藤原委員、文入委員、松崎委員、宮下委員</p> <p><松戸市> 子ども部長、子育て支援課、子どもわかもの課、子ども家庭相談課、保育課、幼児教育課、健康福祉会館、障害福祉課、教育企画課、指導課、事務局（子ども政策課）</p>
4. 傍聴者	6名
5. 次第	<p>1 委嘱状交付式</p> <p>2 松戸市子ども・子育て会議 （1）松戸市母子保健連絡協議会実施経過について《報告》 （2）第2期松戸市子ども・子育て事業計画おける量の見込みについて《協議》 （3）第2期松戸市子ども総合計画の体系について《意見交換》</p> <p>3 その他</p>

<要旨>

1 委嘱状交付式

○新規委員に子ども部長より委嘱状を交付

○令和元年度第1回子ども子育て会議以降に、委員から寄せられたご意見の報告

・会議の進行について、以前行ったグループワークのような形式の方がより多くの意見を聞くことができるのではないか。
 （石田委員）

・会議の席順について、入れ替えがあると委員同士で有意義な話がさらにできるのではないか。（加藤委員）

（事務局回答）

本日の会議は、意見交換を目的とした席順となっている。次回以降も、委員同士で相互に意見交換できるように工夫していきたい。

・アンケート調査から小中学生の放課後の居場所が不足していることについて、中高生を含めた通年の放課後対策を進める必要性を強く感じる。（神谷委員）

○子ども部長挨拶、坂野会長挨拶、阿部副会長挨拶

2 議事

○会議の成立

(事務局)

総委員数 25 名、19 名出席 (6 名欠席)

「松戸市子ども・子育て会議条例」第 6 条第 2 項の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

(事務局)

「松戸市情報公開条例第 32 条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成し、公開をしたい。

(坂野会長)

プライバシーに関する部分に充分配慮するものとして、公開することを了承する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

6 名の方からの傍聴の申し出あり。

(坂野会長)

入室を許可する。

(1) 松戸市母子保健連絡協議会実施経過について

(坂野会長)

議題 1「松戸市母子保健連絡協議会実施経過について」報告をお願いしたい。

(子ども家庭相談課 母子保健担当室)

「資料 1：松戸市母子保健連絡協議会設置要綱」をもとに説明を行った。

(2) 第 2 期松戸市子ども・子育て事業計画おける量の見込みについて

(坂野会長)

議題 2「第 2 期松戸市子ども・子育て事業計画おける量の見込みについて」報告をお願いしたい。

(子ども政策課長、保育課長、子育て支援課長)

「資料 2：第 2 期松戸市子ども・子育て支援事業計画の量の見込みの算出について」をもとに、現時点の量の見込みの算出状況について、説明を行った。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(神谷委員)

本日の説明には「小中高校生の居場所づくり」に関する量の見込みが提示されていないが、市としての考えはいか
がか。

(子どもわかもの課長)

平成 29 年に実施した子育て世帯生活実態調査の結果によれば、小学 5 年生、中学 2 年生のそれぞれ約 7
割が放課後の居場所を希望していたと記憶している。この数字は、次期計画でも活かしていきたいと考えている。
本日示した放課後児童健全育成事業の量の見込みも含め、全ての小中高生を対象とした放課後対策を重点
的に推進していきたいと考えている。

(神谷委員)

納得できないところもあるが、意見として提示する。

(3) 第 2 期松戸市子ども総合計画の体系について

(坂野会長)

議題 3「第 2 期松戸市子ども総合計画の体系について」意見交換に先立ち、子ども政策課から説明をお願い
したい。

(子ども政策課長)

資料 3-1「第 2 期松戸市子ども総合計画の体系の検討状況について」をもとに、子ども政策課長から説明を行
った。

○意見交換の実施

出席委員を 4 グループに分け、現時点の体系案（3つの基本目標「<Ⅰ>子どもの力」、「<Ⅱ>家庭の
力」、「<Ⅲ>地域の力」やそこに属する施策・文言等）について、各グループで意見交換を実施。

○各グループによる発表（発表順）※以下番号については資料 3-2 に示している。

【Bグループ発表】

<Ⅰ>子どもの力

- ・ I -3「全ての子どもの自立を支援する」とあるが、「全ての子どもが自立できる」とした方が、主語が統一されて全体
の表現としてそろうのではないか。
- ・放課後児童クラブについては、I -2「青少年が生きる力を育むことができる」に位置付けられているが、I -2 と I -3
の区分が分かりづらく、I -2 が最も適切とは言えないように感じる。
- ・ I -1 が乳幼児についての施策であるのに対し、I -2 でいきなり青少年になっており、青少年に小中高生が入って

しまうのかという意見があったため、小学生と中高生ぐらいに分けられないか。

- ・貧困対策については、子ども食堂がメインになるのであれば、＜Ⅲ＞地域の力に位置付けられるのではという意見があったが、行政の計画なのでこのままでよいのではということになった。

＜Ⅱ＞家庭の力

- ・Ⅱ-3-3「ワーク・ライフ・バランスの推進」は、家庭の問題ではなく企業の努力のため、＜Ⅲ＞地域の力に位置付けるべきではないか。
- ・Ⅱ-3-4「父親が活躍できる機会の充実」については、父親だけではなく、母親も活躍できなくてはならず、男女共同参画という視点もう少しほしい。
- ・今回、「親力」ではなく、「家庭の力」としたのはなぜか。

＜Ⅲ＞地域の力

- ・Ⅲ-4-1「企業や大学との連携を推進する」とあるが、大学だけで小中学校や高校とは連携しないのか。また、Ⅲ-4「子どもと子育て家庭を地域全体で応援する」にある「地域」とは、最小単位として町会・町内会をイメージするがいかがか。また、主な事業で子育て支援員を育てるとあるが、スペシャリストを育てることよりも、ごく普通の近隣の人のコミュニケーションがないことが現在の問題のため、その点を促進する事業はどうか。
- ・高齢者の力を活用するという視点を、どこかに入れられないか。町会内の老人会と子ども会が接点なくバラバラに活動している状況だが、接点ができるような推進ができないかが重要である。
- ・市民と行政と企業とが話し合いができる場が必要ではないか。

【Bグループ総括】

(坂野会長)

Bグループのキーワードは「協働・連携」ということが大きかった。企業の力を活用するという視点、高齢者の活用、小学校が主体となる事業がないなどという指摘があった。地域というものは小学校区を中心として活動することが非常に多く、その意味では小学校区の視点も重要で、松戸市の地域コミュニティの政策的な話であったと感じた。

(阿部副会長)

私も発表を伺い、共感するところがあった。主な事業は、施策から事業の流れということで整理されると思うが、事業の重なりが非常に多い。似たものだが、どこが違うのかというのが当然あり、重なりがあるのはもったいない。そのため、この主な事業の後ろに、もう一段階、統合的・総合的なものがあるといいのではないか。その整理の際には、やはり市民の目線、地域の目線、子どもの目線に立った総合的なものがあると、実施体としてより活用度が高いだろうと感じた。そうした中で、市民と行政との話し合いの機会を持ち、市民が主体的に動いていくということも大事な選択肢である。

【Aグループ発表】

第1期計画の施策の体系に比べて、第2期の体系（案）は分かりやすくまとまっているというのが、まずはこのグループの意見だった。

＜Ⅰ＞子どもの力

- ・Ⅰ-1-2「乳幼児期の教育・保育を充実させる」の主な事業に、「幼稚園の預かり保育の整備」とあり、松戸市でも実施する園が増えてきているが、預かり保育としてカリキュラムを組むところまでいかず、預かるだけの園が多いように

思える。質の向上ができる体制をつくっていくことが望ましい。

- ・ I -3-4「障がいのある子どもの自立を支援する」の主な事業で、児童発達支援の充実も入れることはできないか。

<Ⅱ> 家庭の力

- ・障がいを持っている家庭では 18 歳までは小児科でみてもらえるが、それから先は見てもらえないことが、親子ともども不安になるため、その垣根をとってほしい。また、相談事業の相談員がついているか否かで、大きく退院後が変わってくるため、相談員を増やすなど力を入れてほしい。
- ・松戸市への転入者向けに、幼稚園から小学校までの子育てのサービスが一覧で分かる、コンシェルジュのような、垣根が低い窓口サービス等があるとよいのではないか。

<Ⅲ> 地域の力

- ・Ⅲ-1-1「安全対策や防犯対策を強化する」について、小中学生までは地域や学校に守られているが、高校生になると手を離される感じがする。県外に進学する子もおり、行動範囲も広がるため、自分の身を守るための安全教室を中学 3 年生の終わりか高校 1 年生の初めに開催してもらえると親としても安心できる。
- ・障がいを持つ子どものいる家庭に対する社会支援が圧倒的に足りない。今、小学生や中学生の障がい児の母親たちは、先のことにとっても不安を感じているため、支援の充実を図ってほしい。

【A グループ総括】

(坂野会長)

A グループのキーワードをあげるならば、「顧客満足度 (CS) 」というイメージをもった。具体的な経験をふまえたお話は、非常に説得力があった。市から見ると「顧客」としての市民の意見を今後も活用して、ぜひこの計画に限らず、様々なところで参考にさせていただきたいと願う。

(阿部副会長)

少々会長と似てくるが、施策というものは一つひとつがバラバラである。市民がどのように生かしたらよいか、もう一歩何かないといけない。そういう点では、今のご意見は大変参考になるのではないかと思う。つなぐ人、受けてくれる人、それから手と手をつなぐ場所がないといけない。

【Dグループ発表】

<Ⅰ> 子どもの力

- ・ I -1「乳幼児期から心豊かに成長できる」の事業が、教育的な内容が多く、自然体験等の体験を事業として増やすといいのではないか。
- ・ I -2-2「地域における子どもの居場所を整備する」について、子ども会など、地域を活用してつなげていくことができればよいのではないか。
- ・ I -2-4「社会と適切につながる場や機会を確保する」の「適切に」という言葉が、「大人が求めている」「正しくなくてはいけない」というものを与える印象がある。
- ・ I -3- 1「子どもが自分を信じる力を持てる機会」について、自己肯定感を高める機会と考え、こども夢フォーラム以外にも、たとえばスポーツ事業でいえば、ドッチボールやソフトボールがうまくなったということも自己肯定感といえるため、もっと幅広く考えてもよいのではないか。
- ・ I -3- 3の「社会適応の難しい青少年を支援する」について「社会適応」という言葉はネガティブすぎるため、もう少

しポジティブに捉えられるような言葉にしたらいいのではないか。

- ・子どもの不安や悩みを解消するのに、いきなり少年相談等には行きにくい。地域の力にもつながることだが、もっと身近に相談できる場所をつくる必要があるのではないか。
- ・Ⅰ-4-4「子どもが参画できる機会を推進する」について、それがⅠの体系の一番下の4つ目にあるので、一番順位が低い印象を与えてしまう。ここを重点的に書くのであれば、これを一番上に持ってくるべきではないか。

<Ⅱ> 家庭の力

- ・Ⅱ-1-1「安心して妊娠・出産できる支援体制を充実させる」の主な事業について、不安を軽減するためには、産後ケアだけでなく、また新たなサービスを開始したらどうか。
- ・家庭の孤立の不安について、Ⅱ-2-1「子どもの育ちについて学ぶ」に「親として成長する」という視点を持つと、さらに親に対してアプローチできるのではないか。また、その場面では民間活力の導入等が必要ではないか。
- ・Ⅱ-2-3「妊娠・出産・育児に関する不安を解消する」というのも、行政に相談に行くのも大事だが、もっと身近な地域で相談できる・つながれる場があればよい。そのためには地域との連携が必要だと考える。
- ・Ⅱ-3-4「父親が活躍できる機会の充実」について、「父親が活躍できる」と表現すると、父親は頑張っていないという印象が与えられやすいため、「父親が子育てに参画できる」など、父親も母親も同じというフラットな表現をした方がよいのではないか。あわせて、男女共同参画センターとの連携も必要ではないか。
- ・Ⅱ-3-1「親子のコミュニケーションを育む機会を提供する」の事業の中に「保育所（園）の園庭開放」とあるが、幼稚園もやっているのではないか。
- ・Ⅱ-4「多様な課題への支援により、全ての家庭が安心して子育てできる」は、生活基盤の安定がまず重要で、そこからひとり親、外国籍、障がいのある児童となるため、順番を変えた方がいいのではないか。

<Ⅲ> 地域の力

- ・Ⅲ-1-2「防災対策を推進する」について、防災だけでなく、「防災・災害対策を推進する」にした方がよいのではないか。また「防災・災害の講座」に参加を促すよりも、地域の町会とかに防災訓練などを行うための補助金を出す方が、町会や子ども会がさらに活躍し、地域がつながっていくのではないか。
- ・Ⅲ-1-3「親子が安心して外出できる環境を整備する」では、授乳室や男性が利用できるおむつ替えの場所などを記載した、松戸市の「お出かけマップ」を作ってもよいと思う。

【D グループ総括】

（坂野会長）

Dグループの発表を一言で言うと、「政策型思考」という言葉が当てはまると思う。批判的な意見から、しかもそれが具体的に市への新たな提案が生まれていた。

（阿部副会長）

若い世代の感覚だと感じた。ポジティブな言葉の方がよいというのは、私も同感である。「これがとてもよい体験になる」という言葉を選んでいくことをいただいたが、その通りだと思った。

似た意見になるが、父親のための講座は、父親に何とか育児にもう少し入ってもらいたいという背景があるのだと思うが、おそらく若い世代の感覚としては、それは結果の一つで、そこに行くまでのプロセスを重視しているのだと思った。そうすると、パートナーで取り組む問題なので、「パパ講座」ではなくて、これは二人で聞くべきものである。それから、育児情報も父親だけではなくて、両方で共有する、当然パパママ学級も一緒に参加することになる。それから「母

子・父子就労促進プログラム」というのは母・父どちらであれ、就労を促進するという意味のため、他に適切な言葉を選ばれるとよいと感じた。

【C グループ発表】

< I > 子どもの力

- ・ I -4-3「外国籍の子どもへの支援を充実させる」とあるが、「外国籍」ではなく「多様な言語・多様な習慣を持っている子どもへの支援」ではないか。
- ・全体に言えることだが、「推進する」、「確保する」、「充実する」という言葉について、今ないから推進するのか、今あるものをさらに進めるから充実するのか、曖昧である。「推進する」、「充実する」という言葉ではなく、現状を把握し、今後どうしていきたいのか、短い文章の中でもその言葉にこだわることで、施策の方向性がメッセージできるのではないか。
- ・「子どもの力」について、大人や親の影響が非常に大きいため、Ⅱ「家庭の力」とⅢ「地域の力」との関連性を何とか表現できないだろうか。
- ・ I -4「全ての子どもの権利が尊重される」は、とてもポジティブで前向きで大切なことだが、ここに書かれていることは権利が侵害されたときの救済など、少しマイナスなイメージがある。施策として新しく入れられないとしても、子どもへの権利の教育や権利が何かという議論をするということがまずあって、それが侵害された子どもたちにどういった施策があるかという流れの方がよいのではないか。

< II > 家庭の力

- ・ II -2「家庭の孤立や不安が解消される」の中の「中高生と乳幼児のふれあい体験」は家庭だけではなく、地域にもいい影響のある事業のため、「地域の力」のⅢ-4「子どもと子育て家庭を地域全体で応援する」に持っていくのはどうか。
- ・ II -3-1の「親子のコミュニケーションを育む機会を提供する」というのは、コミュニケーションがうまくいかないから不安や解消があるので、II -2「家庭の孤立や不安が解消される」に持っていき、そして、そこで基礎力があつた上での、II -3の「子育ての充実感を持つことができる」につながるのではないか。
- ・「家庭の力」の基本目標に、「家庭の子育て力が向上し」とあるが、「できる」、「向上する」、「前に進む」、などをやめようという支援策であったはずだが、「向上」となっている。「家庭の子育て力」がその家庭なりにあって、安心して子育てができればそれだけでよいのではないか。

< III > 地域の力

- ・ III -1-1「安全対策や防犯対策を強化する」について、スクールガードを入れてほしいという意見があつた。それぞれの立場で、子どもたちに対する支援の力を実感している人たちがいる。
- ・ III -3-3「豊富な知識、経験を持つ地域の人活躍する機会を増やす」とあるが、「豊富な知識、経験」はなくてもよいのではないか。「豊富な知識、経験」のない人の方が多いのではないかと思う。特別でなくても、子どもに関心のある人が子どもと交流する、それが底力ではないか。
- ・ III -4- 1「企業や大学との連携を推進する」について、市内の大学と連携するという形の方がよいのではないか。また、企業は、特に子どもにとって駆け込みやすいコンビニなどが駆け込み所になると、どんなときでも助けを求めに行きやすいという意見があつた。

【Cグループ総括】

(坂野会長)

Cグループの発表は、一言でいうと、「課題設定」というキーワードをイメージした。やはり、個別具体的な議論でありながら、核となる理念、権利ということ発言していたが、子どものことを考えて真摯な議論が出てきているのだと推察した。

(阿部副会長)

面白いご意見をたくさん頂戴した。確かに「向上させる」というのは、本当にストレスである。

また、スクールガードの存在が大きいとの発言があったが、地道に子どもたちをそばで守っている存在があるというのは大きい。地域の中にあるよいものを伸ばしていく視点を教えていただき、大変よかったと感じた。

3 その他

(事務局)

○委員の任期

委員の任期が今月 8 月 19 日で任期満了となり、改選となる。

○次回の会議の開催

次回の会議については 10 月下旬から 11 月上旬の開催を予定している。